【漁況】
[マアジ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トンをピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。
その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2024年は9.2万トンとなりました。

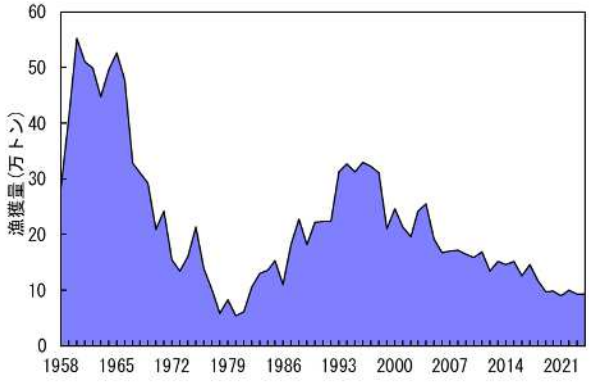


図　全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の 2026 年７～９月期の漁況の経過
【４港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】
北薩海域、薩南海域のまき網では漁場が形成されませんでした。
４港計のまき網では 37 トンの水揚げで、前年比 7%、平年比 9%でした。

3. 県内の 2026 年 10～12 月期の見とおし
漁獲主体：小銘柄以下（０歳魚：2026 年生まれ）
来 遊 量：前年（420 トン）、平年（641 トン）を下回る
（根　拠）
漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。来遊量には直近の漁模様と正の関係があり、前年、平年を下回ると考えられます。

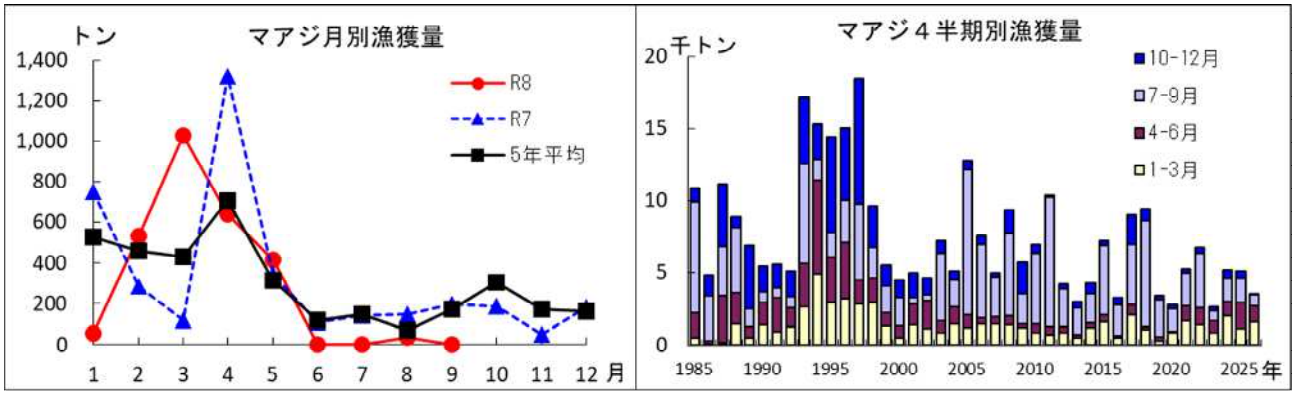


図 マアジまき網月別、４半期別漁獲量（４港計）
※平年値は過去５年の平均値、2026 年９月 23 日までの水揚量を使用
（以下同じ）

［サバ類］

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トンをピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2024年は26万トンとなりました。

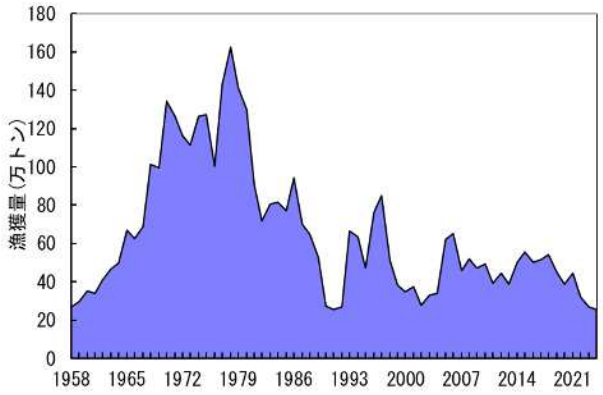


図　全国のサバ類漁獲量の推移

2. 県内の 2026 年７～９月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では漁場が形成されませんでした。

薩南海域のまき網では主に津倉、湯瀬に漁場が形成されました。漁獲の主体は中銘柄（３歳魚以上：2023 年以前生まれ）でした。

４港計のまき網では 805 トンの水揚げで、前年比 48%、平年比 40%でした。

3. 県内の 2026 年 10～12 月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ小銘柄（１～２歳魚：2024～2025 年生まれ）、中銘柄（３歳魚以上：2023 年以前生まれ）

来 遊 量：前年（1,312 トン）、平年（1,561 トン）を下回る

（根　拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量には直近の漁模様と正の関係があり、前年並で平年を下回ると考えられます。

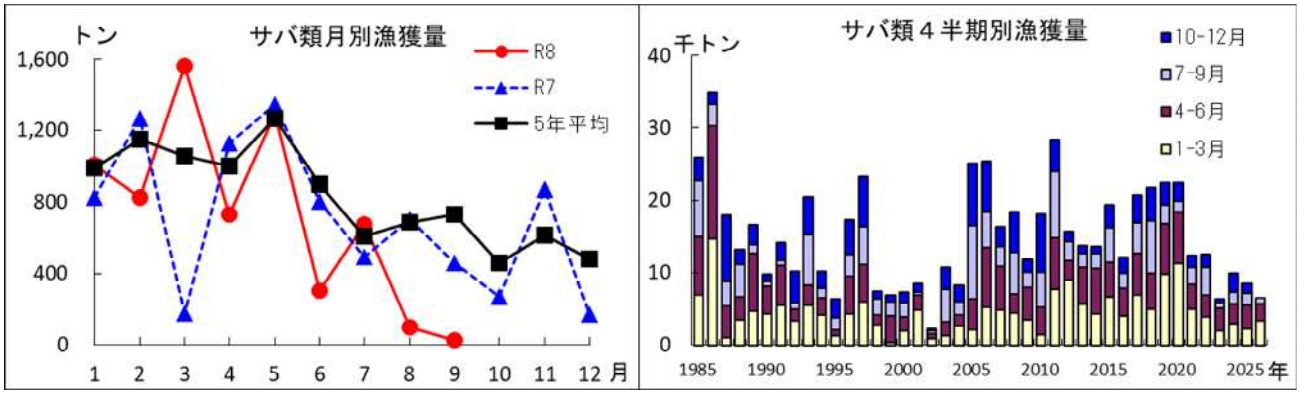


図 サバ類まき網月別、４半期別漁獲量（４港計）

［マイワシ］

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降､全国的に漁獲量は減少を続け､2002～10年までは､10万トンを下回る低い水準で推移していていましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに､2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2024年は66万6千トンとなりました。

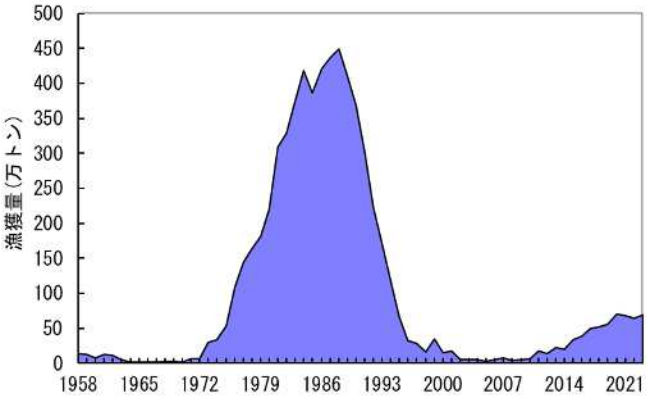


図　全国のマイワシ漁獲量の推移

2. 県内の 2026 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では主に甑島周辺海域、天草、阿久根に漁場が形成されました。薩南海域のまき網では主に枕崎、開聞、野間池に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、7～9 月は小羽～中羽主体（0 歳：2026 年）に 8,462 トンの水揚げで、前年比 454%、平年比 542%でした。

北薩海域の棒受網では、小羽～中羽主体（0 歳：2026 年）に 1,050 トンの水揚げで、前年比 311%、平年比 413%でした。

3. 県内の 2026 年 10～12 月期の見とおし

漁獲主体：小羽～中羽（0 歳：2026 年）主体

来 遊 量：前年、平年を上回るでしょう。

（根　拠）

漁獲の主体と来遊量は､現在の漁況経過から予測しました｡前期の漁況を基に予測すると，今期の来遊量は前年，平年を上回ると考えられます。

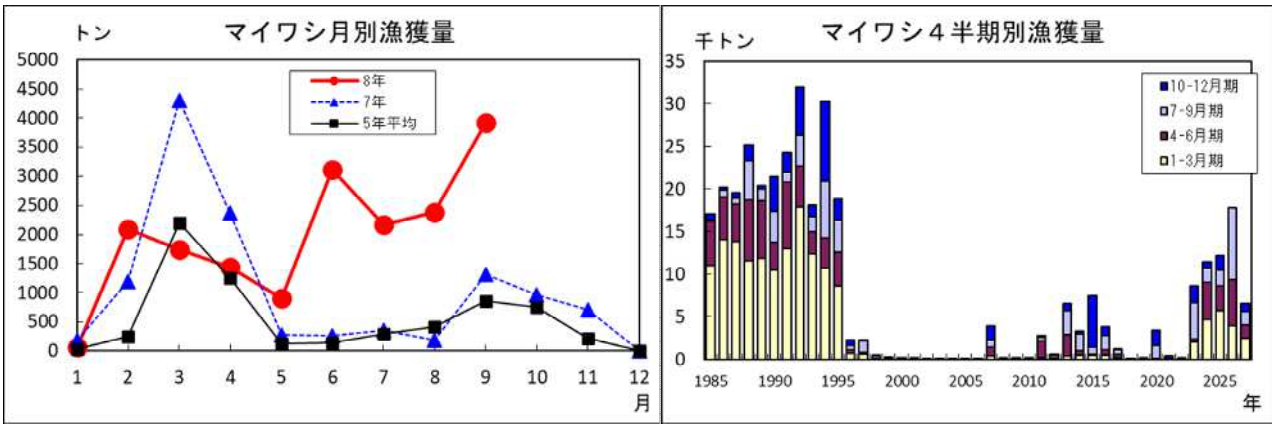


図 マイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

［ウルメイワシ］

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。2024年の漁獲量は6万9千トンとなりました。

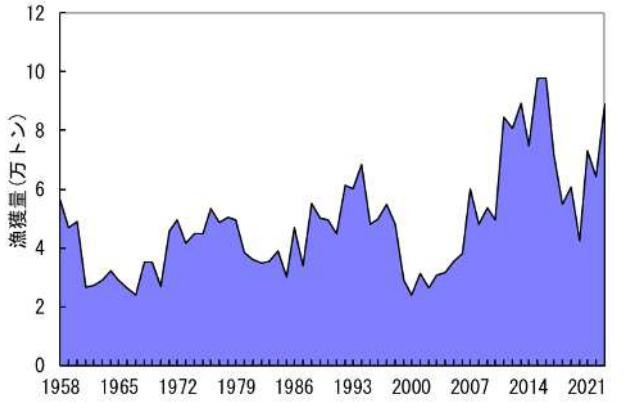


図　全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 県内の 2026 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では主に甑島周辺海域、牛深に漁場が形成されました。薩南海域のまき網では主に枕崎、開聞に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、小羽～中羽（0 歳以上：2026 年）主体に 595 トンの水揚げで、前年比 40%、平年比 57%でした。

北薩海域の棒受網では、小羽～中羽（0 歳以上：2026 年）主体に 114 トンの水揚げで、前年比 34%、平年比 21%でした。

3. 県内の 2026 年 10～12 月期の見とおし

漁獲主体：　小～中羽（０歳魚：2026 年）主体

来 遊 量：前年を下回り、平年並でしょう。

（根　拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年を下回り、平年並と考えられます。

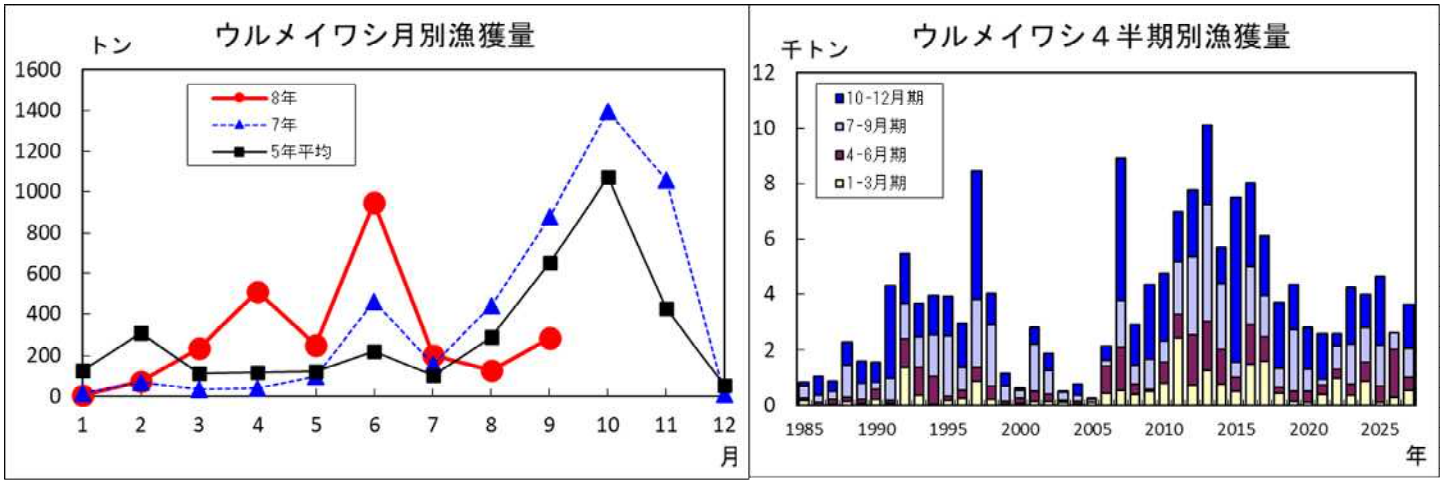


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

［カタクチイワシ］

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

　全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが､1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

　その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2024年は10万2千トンとなりました。

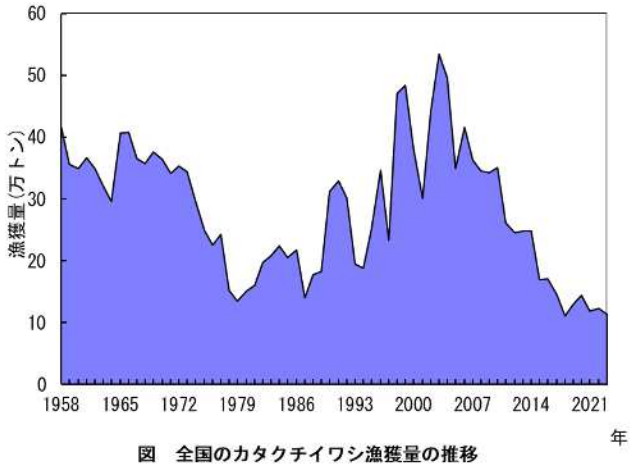


図　全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の 2026 年 7～9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

まき網・棒受網による、北薩、薩南海域のカタクチイワシの漁獲はありませんでした。

3. 県内の 2026 年 10～12 月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（0～1 歳魚：2025～2026 年生まれ）

来 遊 量：前年並で、平年を下回るでしょう。

（根　拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年並，平年を下回ると考えられます。

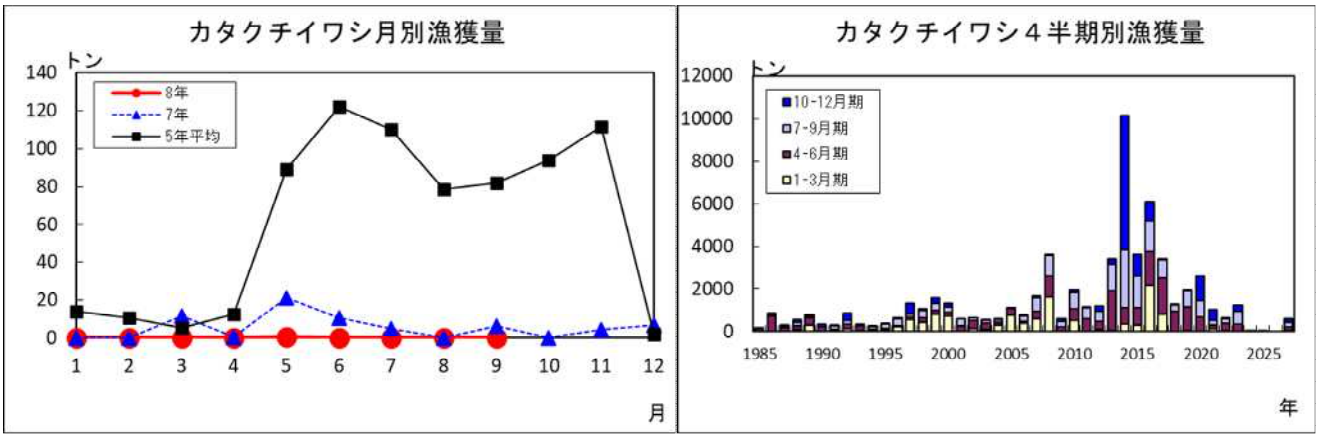


図　カタクチイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

［イワシ類参考資料］

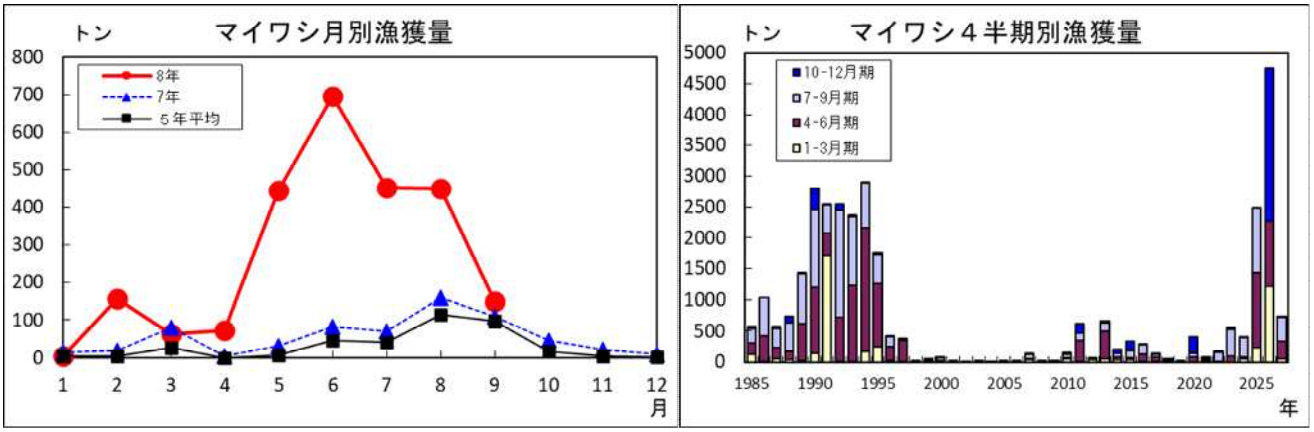


図 マイワシ棒受網漁獲量変化（阿久根港）

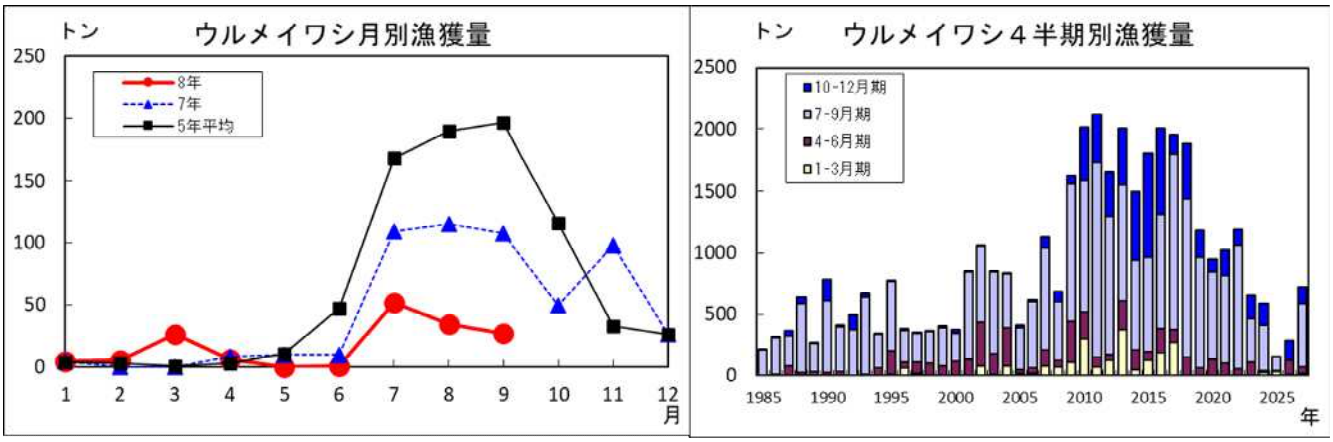


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化（阿久根港）

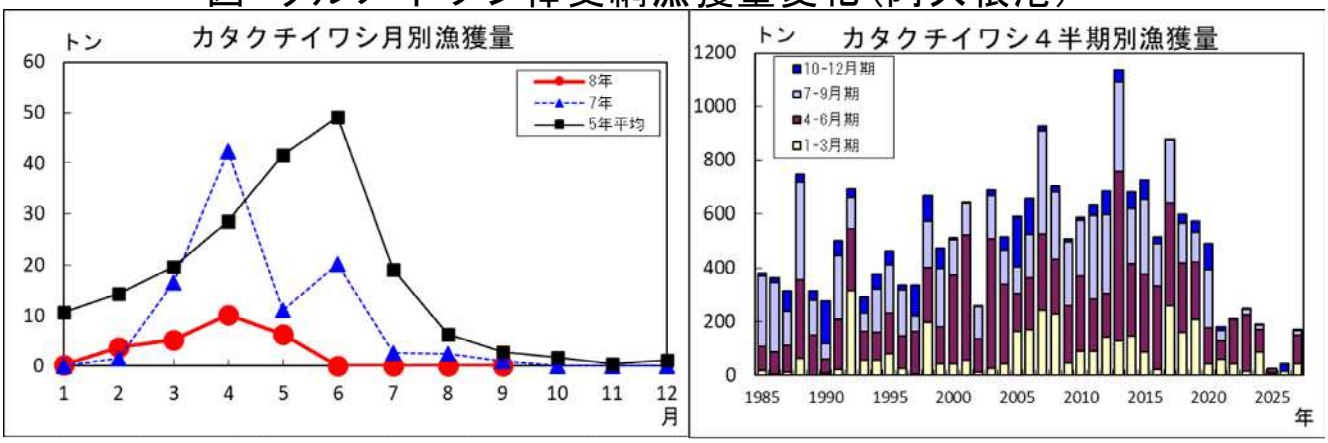


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化（阿久根港）

［シラス］

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、2002、2003 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、2004 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、2005 年以降減少傾向を示し、2025 年は 0.4 トンと過去最低の漁獲量となりました。

志布志湾海域では、2007 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2022 年から漁獲量が減少し、2025 年は 207 トンの漁獲量となりました。

2. 2026 年 6～8 月の漁況の経過

西薩海域では、漁獲はありませんでした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 11 トンの水揚げで、前年比 44%、平年比 24%でした。

3. 2026 年 10～12 月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。

西薩海域の来遊漁は、前年並で、平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域の来遊漁は、前年並で、平年を下回ると考えられます。

（根拠）

西薩海域の直近の漁模様から前年並で、平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域の直近の漁模様から前年並で、平年を下回ると考えられます。

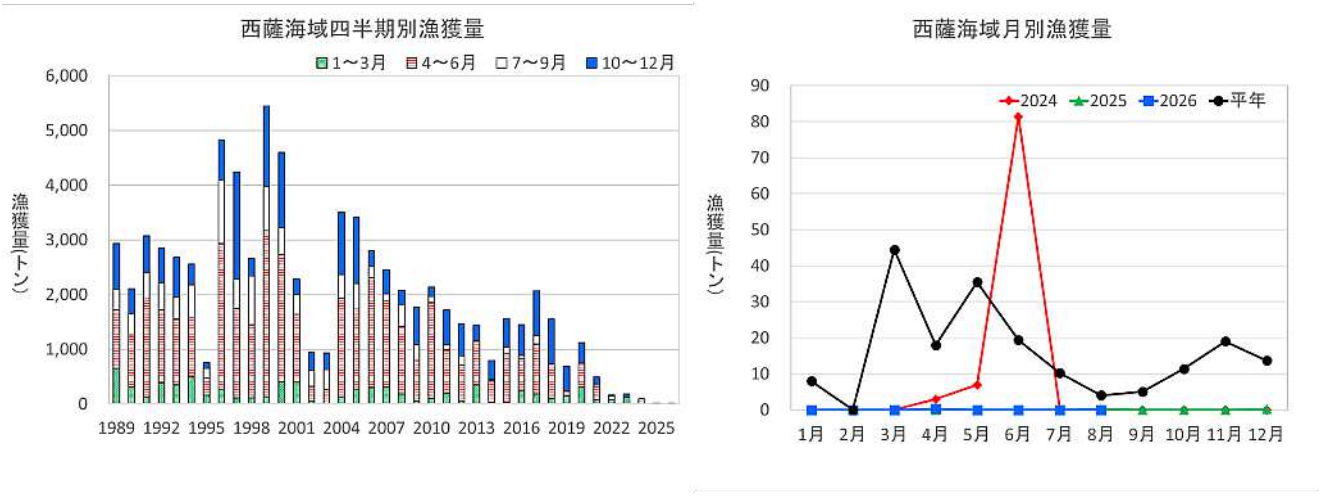
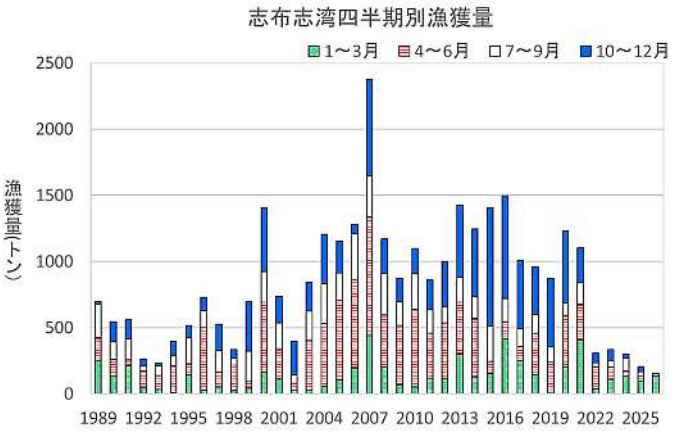


図　西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化（４漁協計）



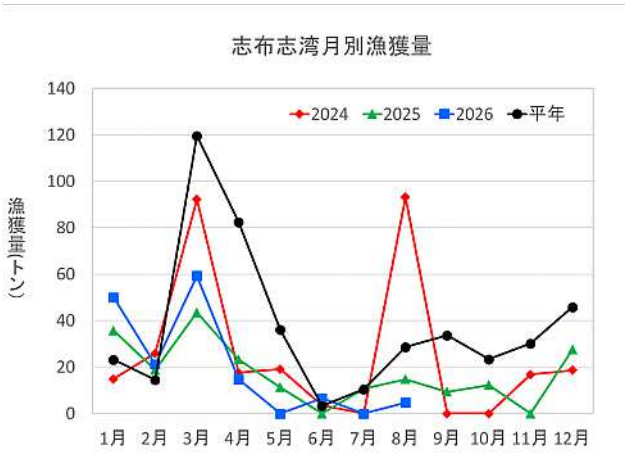


図　志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化（２漁協計）

※平年値は過去５年の平均値(AV)、2026 年 8 月 31 日までの水揚量を使用

［ムロアジ類］

〈クサヤモロ、ムロアジ、モロ（水産技術開発センター調べ：４港計）〉

1. 経年経過

鹿児島県におけるムロアジ類の漁獲量は、1990 年の 21,700 トンをピークに急減し、1994 年以降は 1,500 トンから 5,000 トンの間での推移しており、2025 年は 3,249 トンとなりました。

2. 県内の 2026 年７～９月期の漁況の経過

まとまった水揚げはありませんでした。

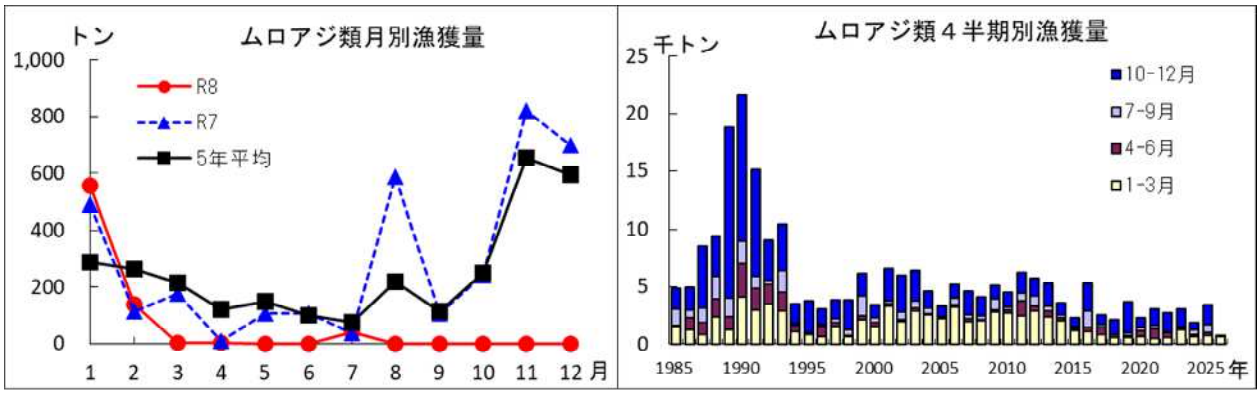


図 ムロアジ類まき網月別、４半期別漁獲量（４港計）

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：４港計）〉

1. 経年経過

鹿児島県におけるオアカムロの漁獲量は、1989 年の 5,300 トンをピークに一旦減少し、1995 年に 4,400 トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007 年には 700 トンとなりました。2008 年に 2,300 トンまで増加した後は 700～2,400 トンの間で推移し、2025 年は 191 トンでした。

2. 県内の 2026 年７～９月期の漁況の経過

まとまった水揚げはありませんでした。

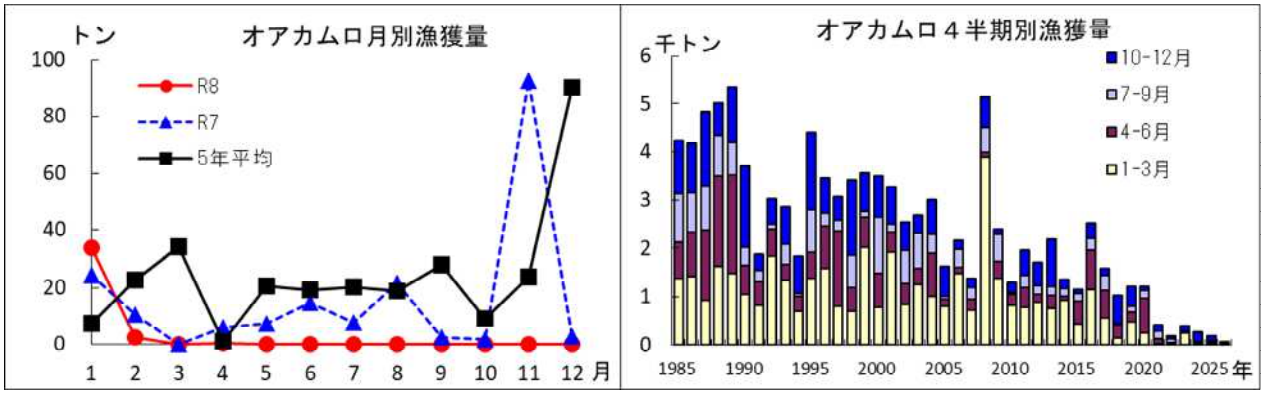


図 オアカムロまき網月別、４半期別漁獲量（４港計）

［マルアジ］

1. 経年経過

鹿児島県におけるマルアジの漁獲量は、1987 年から 1989 年に 1,500 トンを超えるピークがあった後低調に推移し、2025 年は 557 トンとなりました。

2. 県内の 2026 年７～９月期の漁況の経過

まとまった水揚げはありませんでした。

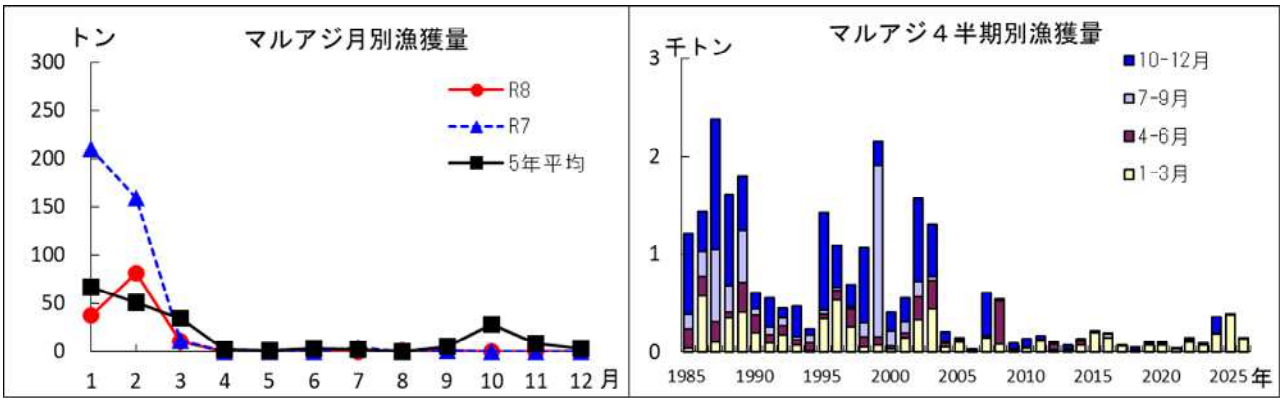


図 マルアジまき網月別、４半期別漁獲量（４港計）